

■ 社会貢献・連携事業

◎ なにわ大阪研究センターと関西国際空港のコラボ展示イベントを開催

大阪の魅力を空港から世界の人々へ



1 巨大日本刀フォトスポット 2 「平家物語絵巻」の超高精細デジタル化画像
3 4 プロの技でひかれた「和食だし」を振る舞った「WASHOKU DASHI BAR」
5 大岡春ト「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」全長16メートルの拡大版レプリカ

10月18日から31日まで、関西国際空港第1ターミナルにて、展示イベント「大阪の歴史・文化魅力体験プロジェクト」が開催された。このイベントは、大阪を中心とする地域研究の拠点として次世代への歴史・文化資本の継承を目指す「関西大学なにわ大阪研究センター」の取り組みの一つ。最先端デジタルテクノロジーを研究する総合情報学部、歴史的な文化遺産の研究を推進する文学部、時代に即したコミュニケーションのかたちを追求する社会学部の文理融合の研究活動でもある。

会期中、1階国際線到着ロビーでは、85インチ8Kディスプレイによる『平家物語絵巻』の超高精細デジタル化画像を世界で初公開したほか、刃文が美しい名刀「国宝 吉房」を拡大出力した巨大日本刀フォトスポットも設置した。また、2階国内線出発ロビーでは、全長16mに及ぶ大岡春ト「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」のレプリカと映像コンテンツを展示。集まった観光客は、展示物の鮮明な映像や迫力に驚いていた。

さらに、21日から23日には特別企画として、大阪のだし文化を体験できる「WASHOKU DASHI BAR」をオープン。エコーラ 大阪(辻調グループ)協力のもと、プロの技でひかれた「和食だし」1,400人分を無料提供した。だしには環境都市工学部の研究によって復活した名水「大阪天満天神の水」が使われており、国内外の観光客から「おいしい!」「ほっとする」と、喜びの声が上がった。

◎ 総合情報学部が「360° frontier」展を開催

ドローンによる空撮映像で高槻市の魅力を発信



▲ハコスコ・デザインワークショップ ▲360° frontierツアー

総合情報学部は10月1日から31日、高槻市との連携プロジェクト「360° frontier」展をグランフロント大阪ナレッジキャピタルにて開催した。

「360° frontier」は、関西大学創立130周年記念事業の一環として、高槻キャンパスに拠点を置く総合情報学部の教員と学生が主体となり、企業とも連携しながら取り組んできたプロジェクト。総合情報学部の情報技術と映像コンテンツ制作の専門性を生かし、ドローン(無人航空機)と全方位カメラを用いて制作した映像作品によって、地域の魅力発信を行ってきた。

会場では、高槻市内にある「今城塚古墳」の空撮映像、「摂津峡

公園」の桜や紅葉、「こいのぼりフェスタ」を上空から眺望できる映像作品、オーストリアで開催された世界最高峰のメディアアート祭典「アルスエレクトロニカ・フェスティバル2015」に出展した体験型作品など、2年間の活動成果が紹介された。また、15日・16日には、直径2.6メートルのドーム型スクリーンを3台設置し、臨場感と迫力のある高精細映像を体験できる特設展をナレッジキャピタル内のスタジオで開催。全方位映像を個人でいつでも楽しめるオリジナル・ビューワーを制作する「ハコスコ・デザインワークショップ」や「360° frontierツアー」も実施され、多くの参加者でにぎわった。

◎ 新聞社六社トップによるパネルディスカッションを開催

関西から考える新聞の“これまで”と“これから”



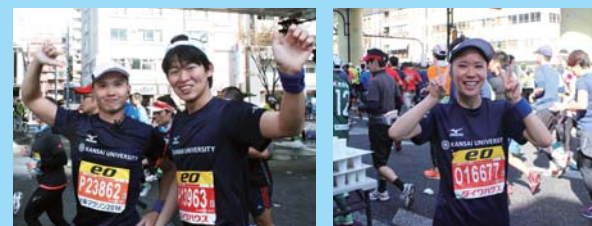
10月22日、関西大学は創立130周年と梅田キャンパス開設を記念して、「新聞六社トップによるパネルディスカッション」を梅田キャンパス「KANDAI Me RISE」で開催した。

各社の幹部が経営・編集方針を越え、これまでにない形で集結したこのイベントは、マスコミ業界で活躍する関西大学OB・OG組織「関西大学マスコミ人会」の協力により実現。学生の幅広い社会的見識の向上に資することを目的に開催され、本学を中心に京阪神の大学生、併設校の高校生ら約300人が詰め掛けた。

▲6新聞社の幹部を招いたパネルディスカッションでは熱い議論が交わされた

当日のパネリストは、朝日、京都、神戸、産経、毎日、読売の6新聞社の幹部。社会学部の黒田勇教授による司会のもと、昨今のメディア環境の急激な変化の中で、関西の新聞メディアはどのような役割を担うのか、過去から未来に向けて各社からさまざまな提言がなされた。その後の学生・生徒による質疑応答では、取材の在り方や、ネットと新聞との関係など、多様な質問が投げかけられ、熱い議論が交わされた。

◎ 関西大学協賛の「大阪マラソン2016」開催
約700人の関大生が大活躍



10月30日、今年で6回目となる「大阪マラソン2016」(大阪府・大阪市・一般財団法人大阪陸上競技協会主催)が開催された。大会のスローガンは「みんなでかける虹。」沿道には133万人の人々が詰め掛け、公募により選出された約3万2,000人のランナーに熱いエールを送った。

関西大学は第1回目から協賛団体として大会運営に協力し、地

元「大阪」を盛り上げるためにさまざまな形で貢献してきた。今大会も、ランナー40人をはじめ、給水ボランティア400人、チャリティ募金ボランティア35人、語学対応ボランティア22人、清掃ボランティア19人など、多くの学生と教職員が参加。沿道では「ランナー盛上げ隊!」として、応援団、チアリーディングサークルCLAIRS、ダブルダッチ会Mix Package、吹奏楽サークルBisが熱く楽しい応援パフォーマンスを繰り広げ、大会に彩りを添えた。

また、28日から30日にはインテックス大阪で「大阪マラソン EXPO 2016」が開催され、昨年に引き続き、28日と29日には展示エリアに関西大学ブースを出展。スポーツ・環境生理学を専門とする人間健康学部の河端隆志教授と学生らが体験イベント「ランニングフォームクリニック」を開催し、人間の構造的特徴に基づいた理想的な走行フォームなどについて、解説・指導を行った。

